

実践報告

# 表現と鑑賞の一体化の考察

## —第2学年の図画工作科の授業を通して—

高添 比登美\* ・ 栗山 裕至\*\*

Consideration of Integration of Expression and Appreciation:  
Through Art and Handicrafts Class of 2

Hitomi TAKAZOE\*, Hiroshi KURIYAMA\*\*

### 【要約】

主に小学校第2学年における表現領域と鑑賞領域を対象とし、A表現とB鑑賞を一体化させた授業の取り組みを考察する。前半は、第2学年で実施した表現領域A(2)絵や立体、工作で表す活動と鑑賞領域Bを合わせた一題材の中で、後半はA表現(1)材料を基に造形遊びする活動から、B鑑賞を経て、A表現(2)絵に表す活動につなげた事例を紹介し、A表現とB鑑賞の一体化を考察する。

### 【キーワード】

表現, 鑑賞, 一体化

## 1. はじめに

人が何かを創作する時、何かから刺激を受けてつくり始めたり、何かをヒントにしながらかつくり続けたりする。また、でき上がったものを眺めたり、飾る場所を決めたりした後、創作を再開するなど、「つくる」と「みる」は相互関係にあるといえる。それは、図画工作科における一連の造形活動も表現と鑑賞を繰り返す表裏一体の活動であるからだろう。平成28年12月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、現行の学習指導要領の成果と課題を受け、具体的な方向性について、「感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。」とある。また、平成29年3月に公示された図画工作科の次期学習指導要領の目標では、「(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」とされた。

これらのことから、表現と鑑賞の活動を相互に関連させる授業づくりの必要性が浮かび上がり、実践することとした。

## 2. 研究の目的と方法

本校図画工作科では、平成27年度より児童が造形活動を行う過程で、表したい思いを主体的に形や色に込めて表すことができるように、造形遊びを中心とした題材を設定して研究を行った。平成28年度は、表現領域において造形遊びを中心とした題材の設定を行い、児童の個々の思いを可視化させる手立てを対象として研究を進めた。平成29年度は、児童が造形遊びで培った資質・能力を主体的に絵や立体で表す方策を探る研究を行ってきた。

\*佐賀大学教育学部附属小学校

\*\*佐賀大学教育学部

以上のことから、表現と鑑賞が相互に関連する授業づくりの研究を進めることとした。その方法として、第一に「一題材の中での表現と鑑賞の一体化」、第二に「複数題材における表現と鑑賞の一体化」の題材を設定した。

### 3. 実践の内容

#### (1) 実践1 一題材の中での一体化

##### ア 題材名「いろ・イロ・いろ 水花（立体に表す）」 全4時間 実施時期：7月

実践1では、まず初めに、低学年である第2学年という発達段階を考慮し、題材の導入に物語の読み聞かせを行って作品を作成し、題材の終末に鑑賞活動をするという一題材の中で表現領域と鑑賞領域の一体化を目指した。題材計画は下の通りである（表1）。表の中の二重囲みは児童の活動のめあてである。

表1 「いろ・イロ・いろ 水花」題材計画

時	○主な学習活動	○教師の働きかけ
1	<div style="border: 2px solid black; padding: 2px;">「キセキの花」のお話を聞いて、どんな花かそうぞうしよう。</div> ○「キセキの花」のお話の読み聞かせを聞く。 ○「キセキの花」を想像する。	○教師の働きかけ ○児童がイメージを広げて自由な発想ができるように、物語の読み聞かせを電子黒板で行って、種を提示する。 ○どのような「キセキの花」が咲くのか問いかけ、児童のイメージを広げる。 ○児童の花のイメージが広がるように、珍しい世界の花の画像を見せる。
2 ・ 3	<div style="border: 2px solid black; padding: 2px;">形や色にこだわって、そうぞうした「キセキの花」をつくろう。</div> ○前時の活動を電子黒板でふり返る。 ○想像した「キセキの花」を、ポリエステルフィルムやカラーホルダー、透明な容器でつくる。 ○本時をふり返り、次時の活動の見通しをもつ。	○本題材の終末時に、つくった「キセキの花」を実際に浮かべることがを知らせ、水面に咲く花を想像しながらつくることを伝える。 ○想像した花に合う材料を選んでつくるように伝える。 ○珍しい世界の花の写真やステープラーの使い方の掲示をしておく。 ○何度もつくり直したり、何個もつくったりしてもいいことを伝える。 ○次時には、実際に作品を水に浮かべることがを伝える。
4	<div style="border: 2px solid black; padding: 2px;">「キセキの花」を水に浮かべて、形や色のよさをかんじよう。</div> ○物語を聞き、水に浮かべた作品の様子を見る。 ○物語の続きを聞き、一斉に浮かべた作品を見て、友達と話し合う。 ○物語の最後を聞き、ライトアップされた作品を見る。	○水が入ったたらいや布で覆った大きなビニールプールを用意しておく。 ○読み聞かせを電子黒板で再度行う。 ○水に浮かべてどんな感じがするか問いかける。 ○作品の形や色について、友達と話し合う時間を設ける。 ○物語の続きを紹介し、布を取って一斉に作品を浮かべさせる。 ○物語の最後を話し、周囲の明るさなどで作品の見え方が変わることを紹介する。

題材では、物語から想像した花を、自分の思いやイメージに合わせて、形づくっていく題材計画を立てた。主な材料に、ポリエステルフィルムやカラーホルダーを用いた。ポリエステルフィルム(図1)は、薄くて折ることができ、カラーホルダーは、厚みがあり、適度な強度がある材料である。両者とも水を浸透させない性質をもち、切断や接着が容易で、しならせて形状を保つことができる。色が豊富にあり、透明なもの、光沢のある不透明なものがある。児童は、イメージに合わせて、ポリエステルフィルムやカラーホルダーの色を選んで切ったり、透明な容器に接着させたりしながら、形づくることができた。接着には、主にセロハンテープを使った。セロハンテープは、水にぬれると接着しにくい、乾いていけば、接着しやすく、児童も扱い慣れている道具である。すぐに形状を保たせ、水に浮かべる点から、ステープラーも用意した。ステープラーの経験として、本学級の児童は、細い厚紙や色の付いたホログラム折り紙をはさみで切ったものを接合する工作活動の経験があるものの、力の入れ方や持ち方が分からず、うまく扱えない児童もいた。そこで活動時には、ステープラーの安全な使い方や注意事項を掲示しておいた(図2)。また、児童がイメージしたものを完成に近付けるために、補助材として、様々な色のモールや手芸材料等を準備した。本実践では、題材を通して、イメージしたものや表したい思いに向かって、ポリエステルフィルムやカラーホルダーの特徴を感じ取り、使い慣れた用具を使うとともに、表し方を工夫し、立体的に形や色を構成する力の育成をねらった。また、自分や友達の商品を楽しんで見ながら、感じたことを話したり、友達の話の聞いたりする活動は、形や色などについてのコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度につながっていくと考え、題材を設定した。



図1 本題材で使用した主な材料のポリエステルフィルム



図2 提示したステープラーの安全な使い方と注意事項

### (7) 題材の導入(第1時)

作品に児童の思いをもたせ、題材の終末までにどう持続させるかを考えた。まず、紙粘土でつくったタネ(図3)を提示し、児童に問いかけた。また、児童がイメージを広げて自由な発想ができるように、電子黒板を使った自作の物語「キセキの花」の読み聞かせ(次項図5、表2)で本題材の導入を設定し行った。児童は、物語の中に出てくるタネのお話に夢中になって聞いていた。「タネさん、ひとりぼっちでかわいそう…。」などと、低学年ならではの反応が見られた。児童の花のイメージが広がるように、珍しい世界の花



図3 提示したタネや花の画像



図4 材料の質感を確かめる児童

表2 題材の導入で行った読み聞かせ

①あるところに、地面にタネが一つありました。何日たっても、雨も降らず、だれも拾いません。タネは空を見上げながら、「ぼくは、どこから来たのだろう。ぼくの仲間、いるのかな。」  
その時、強い風が吹きました。タネはコロコロ転がっていきました。

②タネはコロコロ転がって、1本の大きな木のねもとにたどり着きました。大きな木がタネに聞きました。「どうしたの？」  
「ぼくは、何のタネだろうって考えている時に、強い風が吹いてここまで来たんだ。」  
とタネは答えました。大きな木は、「君の体の形や色は、どこかで見たことあるな...。ああ、そうだ。あの森の向こうに、何でも願いがかなう不思議な泉があるよ。何か手がかりが見つかるかもしれないよ。」  
と、森の方を指さしながら言いました。  
「ありがとう。」  
タネはお礼を言うと、手掛かりを探すために泉を目指しました。

③森を抜けると、水が透き通った泉がありました。タネは泉に向かって呼びかけました。「ぼくは、何のタネなの？家族や仲間はあるの？だれか教えて！」  
すると、急に辺りが暗くなり、嵐になりました。風に吹かれて、タネは、泉に落ちてしまいました。  
「このまま、何も分からないままなのかな。」  
タネは、泉の底へ沈んでいきました。沈んでいく途中、何か声が聞こえてきました。  
「君は『キセキの花』のタネだよ。その花は、見る人すべてを幸せにする、とても不思議な花なんだ...。」

④しばらくたって、タネは目を覚ました。水面から明るい光が降り注いでいます。光のさす方へ向かって昇っていきました。何だか体も軽くなった気がしました。水面から顔を出したタネは、満開の花になっていたのです。その花は...

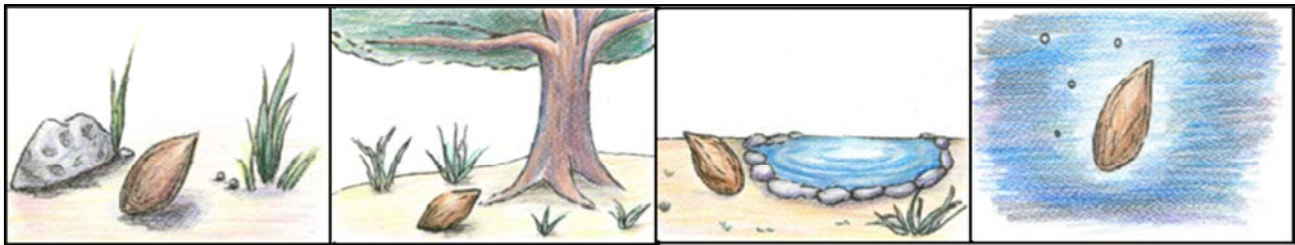


図5 題材の導入で読み聞かせと一緒に提示した絵

の画像を電子黒板で提示した後、教室に掲示した(図3)。次に、使う材料のポリエステルフィルムやカラーホルダーで材料体験を行うと、児童は触って、「色がきれい！」と使いたい材料を選んで触っていた(前項図4)。

図6は、第1時の板書であり、①は児童が物語を聞いて児童がイメージした「キセキの花」をまとめたウェビングマップ、②は出した材料体験をして感じた質感やした行為である。児童の思いを板書で視覚化し、最後に、「キセキの花」をつくる時に、どんなことができそうか問いかけ、児童の次時への意欲を高めた。

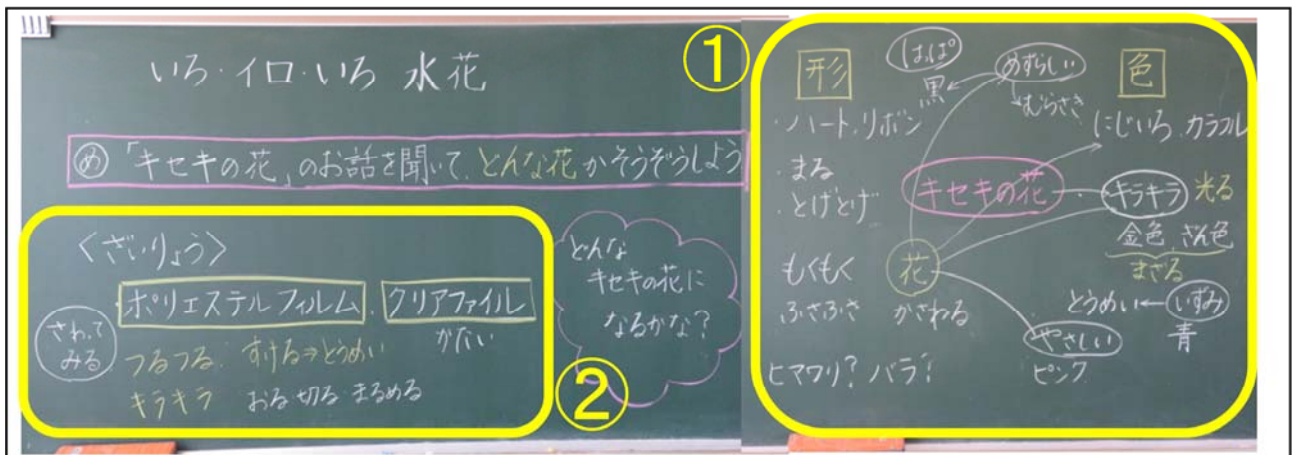


図6 第1時の板書



(イ) 作成時の活動の様子 (第2・3時)

第2時の活動の導入の初めに、『『キセキの花』は、最後どうなったかな?』という問いかけから始め、題材名に戻り、次の時間につくった「キセキの花」を実際に浮かべることを知らせ、水面に咲く花を想像しながらつくることを伝えた。表3は、その時の教師の言葉かけと児童の反応である。次時は、「キセキの花」に合う材料を選んでつくるように伝えた。

児童は、光に透かしたり、ポリエステルフィルムを重ねて見たりした前時の材料体験を基に、作品の土台となる透明な容器に材料を加工し、接着していった。透明容器に接着した柔らかいポリエステルフィルムを動かし、風になびかせたり、曲げるとしなる固さのあるカラーホルダーを尖らせて立たせたりしながら活動を進めた。活動途中、形や色を一定の距離から離れて作品全体のバランスを確かめたり、立って上から作品を見たりしながら、つくり続ける児童の姿も見られた(図7)。また、制作途中でも色の重ね方や形の意味などを説明する姿が見られ、作品への児童の思いの強さを感じる場面が多く見られた(図8)。

図9は、第2・3時の板書で、①②③は、板書した順番ある。①は、児童が感じた材料の質感である。②は児童が感じた材料の質感から考えて、向いている接着や接合の道具を提示した。③は児童から出た、材料の質感から思い付いたことやできそうなことを形や色、行為の観点に着目させた45分間の流れが分かる板書を意識して終末をふり返った。

表3 第一時の教師の言葉かけと児童の反応

T:『花』じゃなくて、『水花』なのかな?
C:・・・?
T:お話の終わりは?
C:あっ!水面に花が咲く! だから、水花!
T:最後は水花を水に浮かべるよ。 浮かべることを考えながら、つくるんだよ。



図7 作品を風になびかせたり、一定の距離から作品を確かめたりする児童



図8 形や色の重ね方を説明する児童

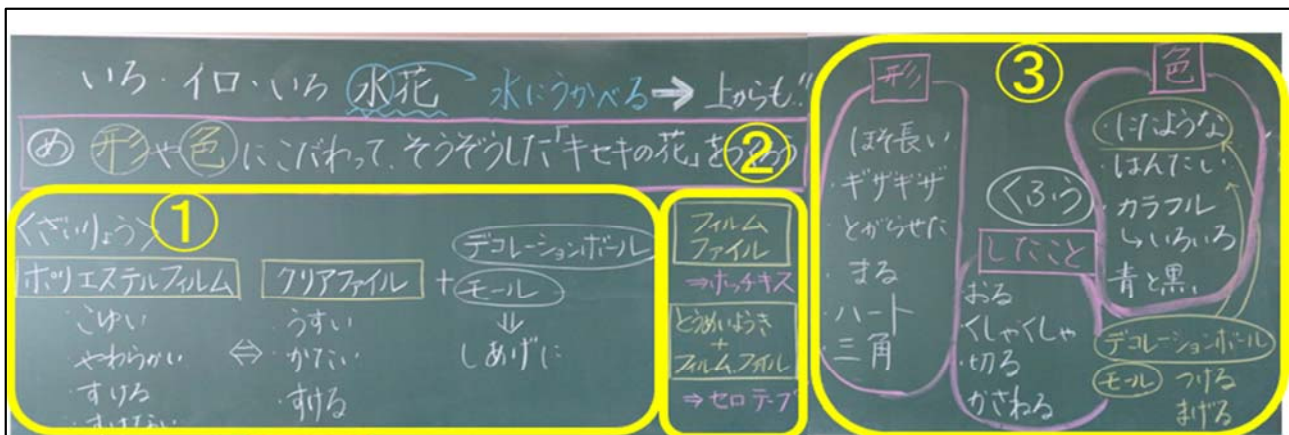


図9 第2・3時の板書

### (ウ) 第4時 鑑賞による題材の終末

題材の終末である第4時では、状況が変わることで生まれる、作品の見え方のよさや面白さに気付かせるために、物語を読み進めながら3段階の鑑賞活動の場を設定した(表4)。3段階の鑑賞活動の場とは、自分の作品と向き合う活動の場、次に一斉に作品を水に浮かべて全体の様子を見る活動の場、最後に周囲の明るさを変えて見る活動の場である。指導目標には、「状況によって変わる作品の様子を楽しんで見ながら、作品のよさや面白さを感じ取ることができるようにすること」、また、評価規準を『「キセキの花」を見て、感じたことを話したり、簡単な文で書いたりしながら、作品のよさや面白さを感じ取っている(鑑賞の能力)』と設定した。また、児童の一人一人の作品と題名を図工室に掲示し、児童が思いをもって制作したのか振り返られるようにした(図10)。

#### a 導入時の工夫

導入では、児童の意欲を高めるために、水を入れたたらいと図工室の中央に大きな布で覆った水を溜めたビニールプールを、児童の視線の高さに合わせて、机上に用意した(図11)。児童は、図工室に入る際に何の活動をするのか楽しみにする姿が見られた。児童が前時の活動を想起し、意欲を高めることができるように、本題材の導入に行った「キセキの花」の読み聞かせを電子黒板で簡単に行った後、本時のめあて『「キセキの花」を水に浮かべて、形や色のよさを感じよう。』を提示した。

#### b 授業の展開

前時までにつくった作品を水の入ったたらいに浮かべて見て、どんな感じがするか問いかけた。作品の様子について、どのように見えたのか友達と話し合う時間を設けた。児童は、「水に浮かべると、揺れ始めた。」「風に当たって、ゆっくり回った。」などと友達と話し合いながら水に浮かべた自分の作品について感想を話し合っていた(図12)。

表4 第4時における児童の主な学習活動

- 1 「キセキの花」の物語の読み聞かせを再度聞き、めあてを確認する。(8分)
- 2 作品を水に浮かべて鑑賞する(30分)
  - ① 水に浮かべた作品を鑑賞する。
  - ② 一斉に浮かべた作品を鑑賞する。
  - ③ 暗くなってライトアップされた作品を鑑賞する。
- 3 本時の活動をふり返る。(7分)



図10 児童の作品と題名を明記した提示物



図11 導入時の場の設置と電子黒板による読み聞かせ



図12 たらいに作品を浮かべる児童



次に、物語には続きがあることを知らせ、湖にはたくさんの仲間の種が眠っており、一斉に花が開いたことを口頭で物語の続きの前半(表5)を紹介した。その後、ビニールプールの布を取って、一斉に花を浮かべさせ、作品に浸る時間を設けた(前項図12)。その際、単体で浮かべた様子見え方とたくさんの花が漂う様子見え方に違いがあるか問いかけた。児童は、「いろいろな形や色の花が水面に咲いているみたい。」

「たくさんの花が集まると、湖がカラフルなお花畑みたいになって、もっと楽しくなったよ。」  
 「長くとがっている花びらもあるし、丸い形もあって面白いな。」など、作品の違いや一斉に浮かべるよさを口々に述べていた。

○ 授業の終末

終末時に、物語の最後を紹介した(表5)。様々な「キセキの花」が咲いた湖に夜がきたことを伝え、図工室を暗くしてビニールプールをライトアップした(図13)。その際、周囲の明るさや光の当て方で、作品の見え方が変わることを感じ取らせた。本時の活動の流れを追いながら、状況によって変わる作品のよさや面白さについて問いかけた。児童は、身を乗り出しながら「周りを暗くして、ライトを当てると、夜に咲く花みたいだ。」などと状況を変えて見る作品のよさについて思いを述べていた。また、本時の活動の流れを追いながら、状況によって変わる作品のよさや面白さについて問いかけ、板書した。①は振り返る際の観点である。どんな風に見えたか「じぶん」「みんな」「光」「くらい」「水」と児童の言葉を振り分けながら観点別に板書して振り返った(図14)。

表5 児童に紹介した物語の続き

辺りを見渡すと、タネが咲かせた『キセキの花』の周りには、たくさんの仲間がいました。不思議な泉は、いろいろな形や色のキセキの花でいっぱいになりました。その様子は…。

夜になって、辺りは真っ暗になりました。たくさんのキセキの花が咲く不思議な泉は、昼間とは違った様子を見せています。何と不思議な泉は、水の底から不思議な光を出し始めたのです。不思議な光に照らされたキセキの花は、さらに輝きを増しました。



図13 プールに浮かべる児童(左)、ライトアップしたプールを眺める様子(右)

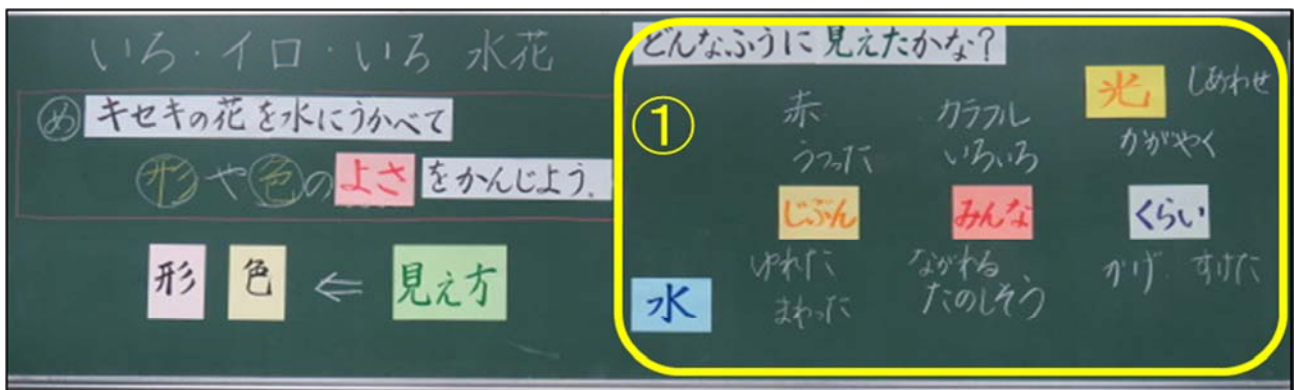


図14 第4時の板書

## (I) 一枚ポートフォリオワークシートの活用

本題材では、第1時の導入から第4時の終末までワークシートを1枚に収めるようにした。ねらいとして導入の読み聞かせて抱いた児童の思いが、終末の鑑賞まで持続するように、また、読み聞かせを聞いてイメージした「キセキの花」を具現化しながら感じた思いの変化が分かるように、さらに、単体、群、明るさなど状況を変えて作品を見た時の感じ方の変化などを実感できるようにするためである。児童は、一題材の中で活動を進めながら自分の作品と向き合うことができた(図15)。

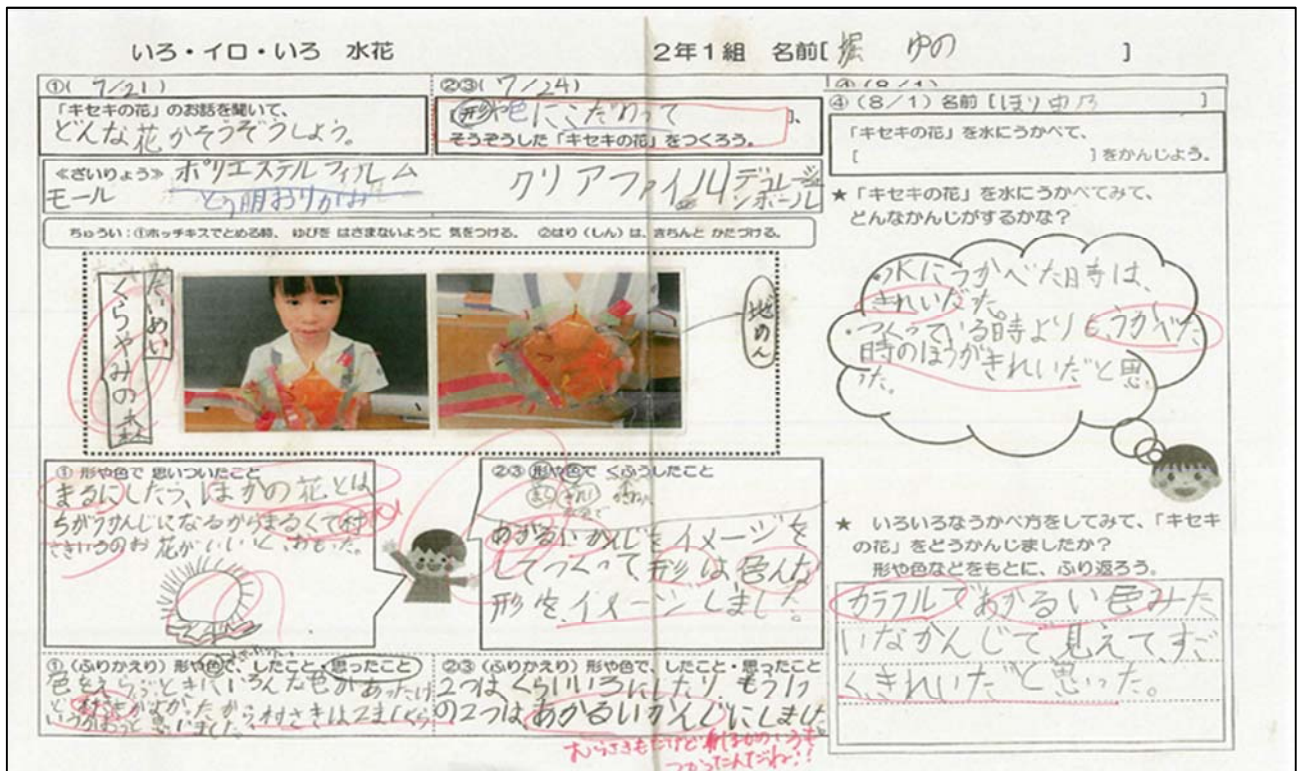


図15 本題材で活用した一枚ポートフォリオワークシート

## (2) 実践2 複数題材での一体化

## ア 題材名「のびる!はずむ!カラフルンルン♪色あそび(造形遊び)」 1時間

材料:色水,障子紙 場所:図工室 時期:8月

本題材は、刷毛やローラーなど様々な道具を使って、色水で障子紙の上に描く造形遊びである。図工室の机などを取り払い、一面に敷いたブルーシートの上に障子紙を敷いて、児童が体全体を使った活動となった(図16)。児童は、色水を付けたローラーや刷毛などをもって障子紙の上を全身で駆け回り、障子紙ににじんだ色水の軌跡から思い付いた様々な行為を楽しんで試していた。活動途中、自分の足跡も模様の一部になっていることに気付き、自ら色



図16 場の設定と全身で行為を試す児童



図17 足跡を付けたり、できた模様を描き込む児童



水が入ったバケツに足を突っ込んだり、手形を付けたりすることを思い付く姿が見られた（前項図17）。

最後に、障子紙を吊るし、全員で眺める時間を設けて、本時で児童がした行為、形や色などで気付いたことなどを交流した（図18）。



図18 障子紙を見て形や色，行為などを振り返る児童

#### イ 題材名「もようからうまれる（鑑賞）」 1時間 時期：9月

色水の造形遊びでできた障子紙がきれいでもったいないと児童と話し、自分のお気に入りの模様を切り取って「世界に一つだけの色画用紙をつくらう」と障子紙の模様をみる鑑賞活動を設定した。切り取った障子紙やその後に残った好きな形の端も保存し、その部分を選んで切り取ったり、形を選んだりしたのかと友達に紹介し、何に見えるか見立て遊びを行う鑑賞活動となった（図19）。



図19 障子紙の好きな模様や色を選び，切り取る児童

#### ウ 題材名「線からうまれる（絵に表す）」 3時間 時期：10月

切り取った障子紙を眺め、見立て遊びをした経験を想起し、模様や色に合う四つ切色画用紙を選んで貼っていく画面の再構成から始めた（図20）。児童は、保存していた障子紙の方向を変えて、自分の中で丁度良い配置にすると、色画用紙に糊付けした。再構成した障子紙の形や色からテーマを決め、墨や白と黒のコンテで描き込む活動につなげた。その際、障子紙の模様や色、色画用紙を生かし、再構成した画面を墨やコンテで塗り潰さないことを伝え、線や点で書き加えるよう促した（図21）。



図20 障子紙の模様や色に合う色画用紙や選んだり，障子紙や色画用紙に合う残った端を選んだりする児童



図21 再構成した画面に墨で線や点を書く児童と作品

## 6. 成果と展望

### (1) 成果

- ・ 一題材の中で、表現と鑑賞を関連付けた設定したことで、児童の造形意欲が導入から終末まで持続させることができた。
- ・ 読み聞かせて抱いた作品へのイメージを具体化する表現活動でもった児童の作品への思いは、鑑賞活動で自分の作品を違った見方をする児童の姿が見られた。
- ・ 一つの鑑賞活動の時間の中でも、状況を変えて作品を見ることは、児童の思いの変化を見取る

有効な鑑賞の手段となった。

- ・ 一枚ポートフォリオワークシートを活用することで、題材全体で一連の児童の思いのつながりや変化を見取る有効な手段となった。
- ・ A表現(1)「材料を基に造形遊びする活動」で残った材料の和紙の模様を、B鑑賞題材として設定し、A表現(2)「絵や立体で表す活動」につなげて作品にしたことは、次期学習指導要領に沿った図画工作科の授業づくりにつながる実践となったと言える。
- ・ 実践1, 実践2の両取り組みにおいて、ワークシートからうかがえた児童の作品への強い思いや楽しんで活動に取り組む姿が見られたことから、表現活動と鑑賞活動の一体化を目指した、計画的に仕組んだ授業づくりは、児童の主体的な活動につながる一つの有効な手立てとなるといえる。

## (2) 展望

- ・ 一枚ポートフォリオワークシートは、題材の途中で児童の活動の変化に柔軟に対応できない側面がある。引き続き、題材と一時間毎の目標と評価に合った一枚ポートフォリオワークシートの改善を図っていく必要がある。
- ・ 表現と鑑賞を一題材として設定することと、題材が終わる毎に柔軟に題材の方向性を変えていける複数の表現と鑑賞の題材を設定することをバランスよく年間指導計画で設定していくことが重要である。
- ・ 年間70単位時間と限られた第2学年の図画工作科の授業時数の中で、必要とされる資質・能力を養うために、教師は題材を整理・精選してカリキュラムを組んでいく必要がある。

## 【参考文献】

- ・ 文部科学省 2008 『小学校学習指導要領解説図画工作編』 日本文教出版株式会社
- ・ 岡田 京子 2017 「学習指導要領改定のポイント図画工作科」(『初等教育資料』No. 954) 株式会社東洋出版
- ・ 岡田 京子 2017 「新学習指導要領座談会(小学校編)」(『教育美術』No. 906) 財団法人教育美術振興会

## 【参考URL】

- ・ 中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』平成28年12月

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm)

- ・ 文部科学省中央審議会『学習指導要領(図画工作科)』平成29年3月

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661\\_4\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf)